

南三陸町
森・里・海・ひと地域資源ブランド推進事業
SDGs

川廷 昌弘

南三陸町地域資源プラットフォーム設立準備委員会委員
南三陸町木質バイオマスエネルギー利活用推進協議会委員
博報堂DYホールディングスCSRグループ推進担当部長

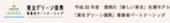
2017/07/27

南三陸町の森里川海マップ



南三陸の森里海マップと記憶

南三陸の人々の心とならば、森里川海つながりの中にある。この町に降り注ぐすべての雨は、森のいただきから川を流れて志津川海に流れ込む。川は、ひとの生きざまのように、森から、年が経てば高くなったとき、谷を流れるように海に注ぐ。川、海は、わたしたちの暮らしを育んでくれる。



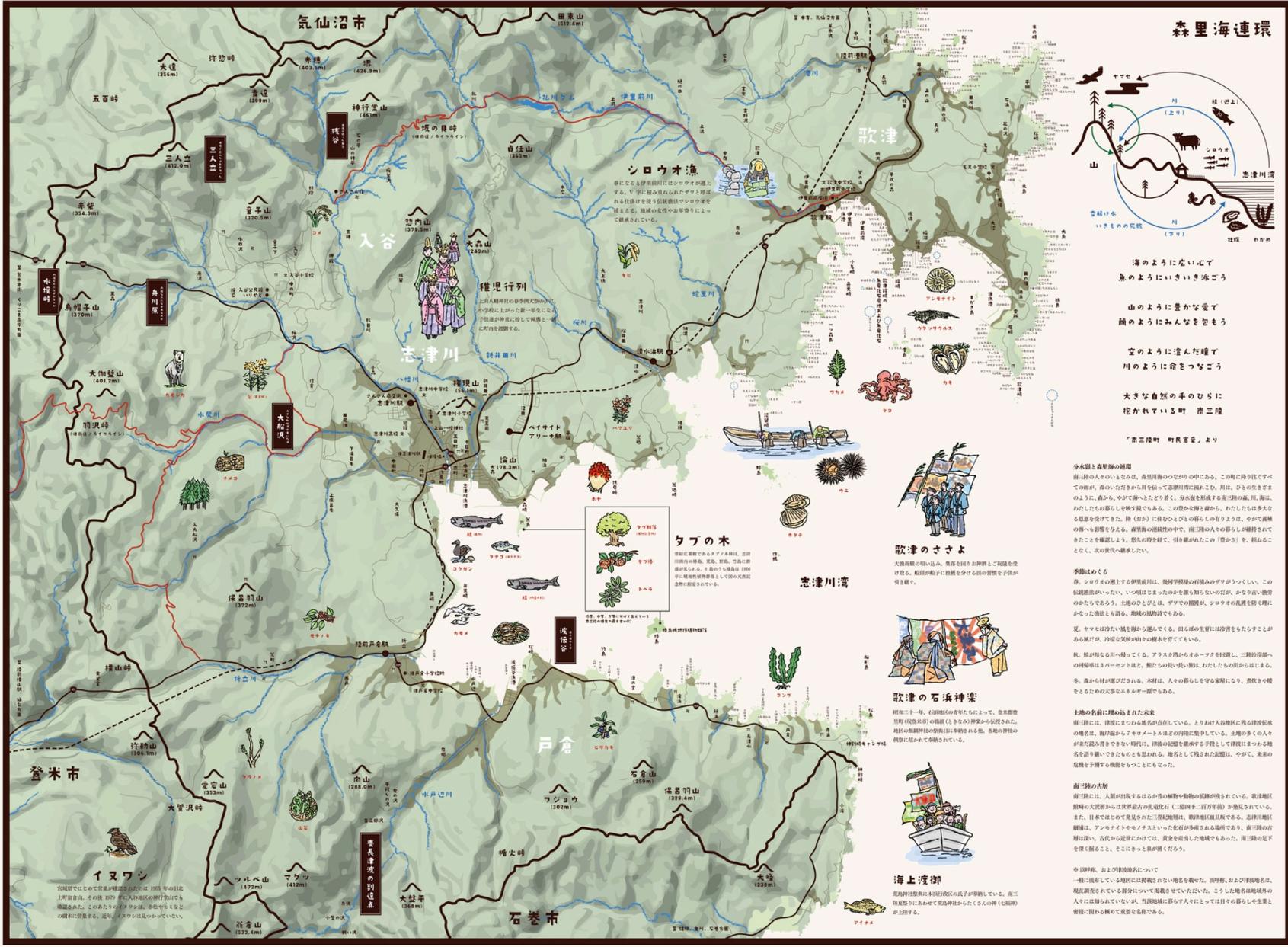
入谷の打囃子

入谷八幡神社の例大祭。神楽舞臺の打囃子による祭り行進で、昭和元(1950)年が最盛期。古くは郡内の人々によって開催されていたが、昭和元(1950)年以降の町政で打囃子を廃止した。

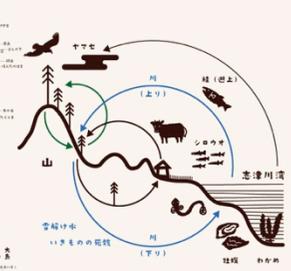


行山流水戸辺鹿子踏

行山流水戸辺鹿子踏の舞の舞の。鹿子踏は、一時盛衰したが、平成元年(1990)年が最盛期。鹿子踏は、鹿子踏の舞の舞の。鹿子踏は、鹿子踏の舞の舞の。



森里海連環



分岐と森里川の連環
南三陸の人々の心とならば、森里川海つながりの中にある。この町に降り注ぐすべての雨は、森のいただきから川を流れて志津川海に流れ込む。川は、ひとの生きざまのように、森から、年が経てば高くなったとき、谷を流れるように海に注ぐ。川、海は、わたしたちの暮らしを育んでくれる。

季節はぐるぐる
秋、シロウオの漁は伊勢川、熊野川、志津川の石浜の川でうつくしい。この伝統漁法は、いつか止まってしまうのを誰もが知っている。だから古い漁師の心には、志津川の川と海は、わたしたちの暮らしを育んでくれる。

夏、ヤマセは海に吹く風を待てる。田んぼの生育には冷涼な水が欠かせない。この風は、冷涼な水と海を育んでくれる。

秋、熊が海に吹く風を待てる。アラスカ産のホッキョクインゲン、志津川海への出荷量はバリエーション。熊の心は、わたしたちの暮らしを育んでくれる。

冬、森の心が海に吹く風を待てる。木材は、人々の暮らしを支えるために、海に吹く風を待てる。海は、わたしたちの暮らしを育んでくれる。

北地の名産は海に吹く風
南三陸には、海に吹く風の名産がある。とりわけ北地の名産は海に吹く風の名産。海に吹く風の名産は、海に吹く風の名産。海に吹く風の名産は、海に吹く風の名産。

南三陸の古祭
南三陸には、海に吹く風の名産がある。とりわけ北地の名産は海に吹く風の名産。海に吹く風の名産は、海に吹く風の名産。海に吹く風の名産は、海に吹く風の名産。

海上渡御
南三陸には、海に吹く風の名産がある。とりわけ北地の名産は海に吹く風の名産。海に吹く風の名産は、海に吹く風の名産。海に吹く風の名産は、海に吹く風の名産。

分水嶺に囲まれ森・里・海が一望できる南三陸町

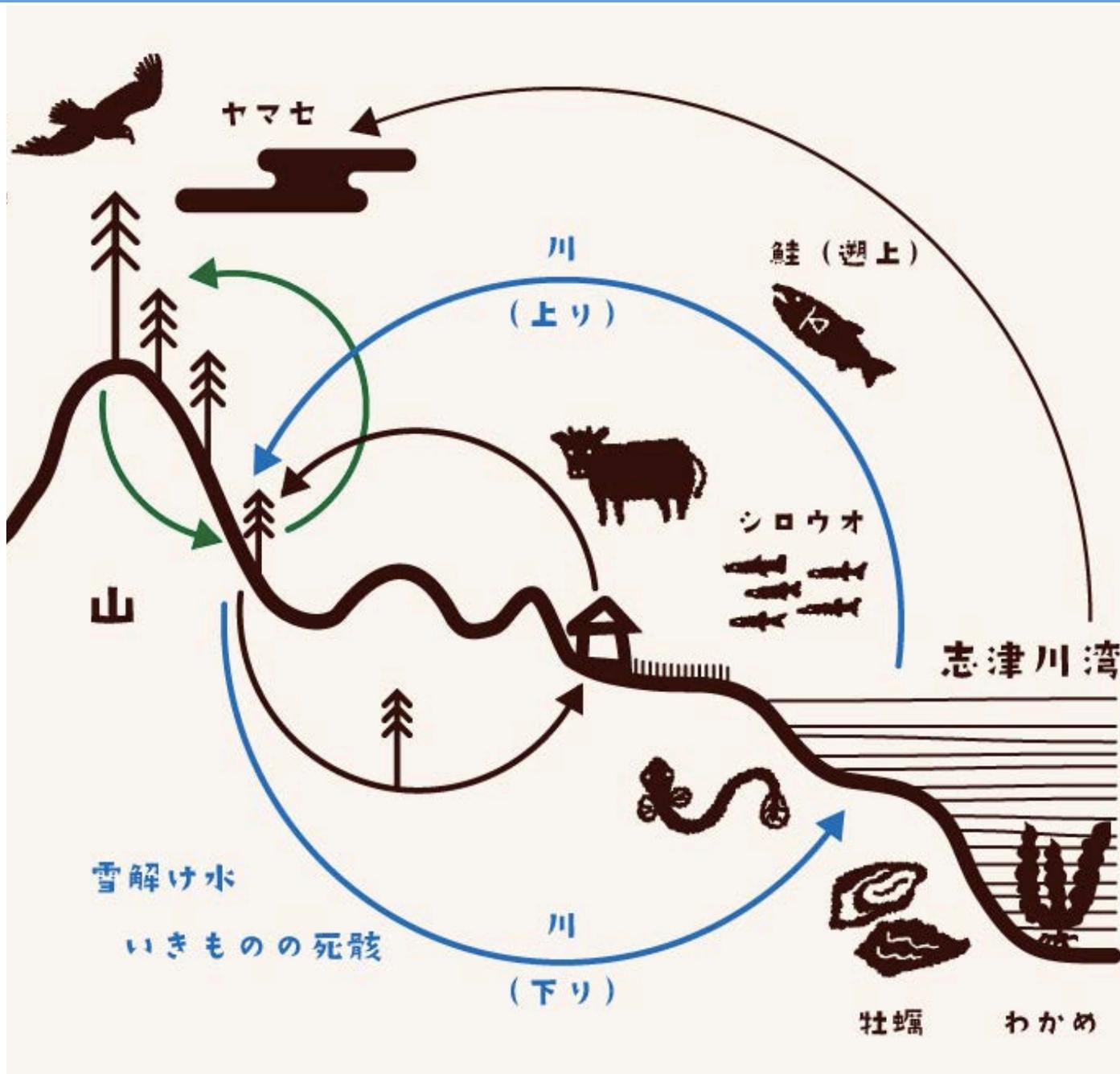




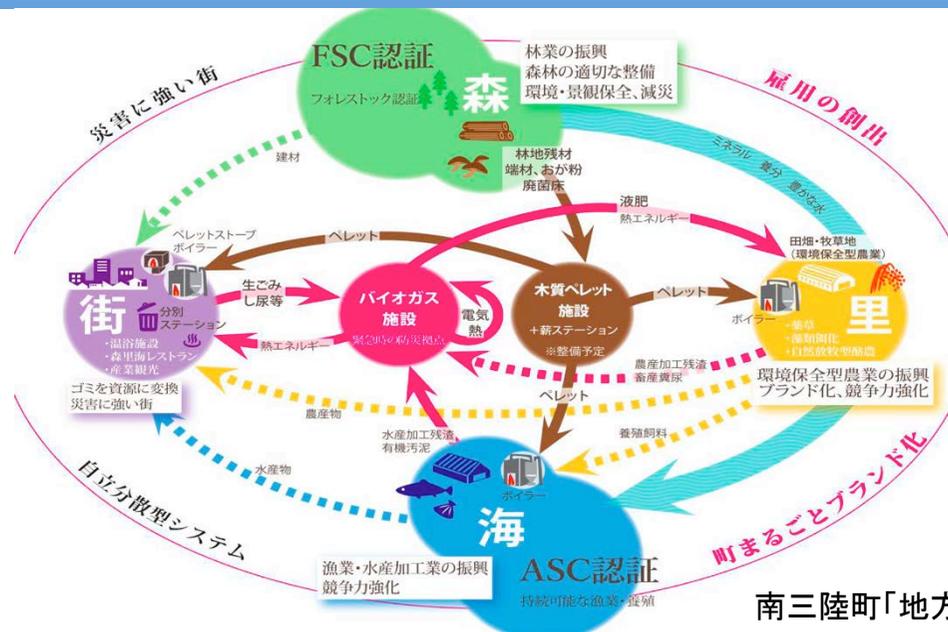
Photo @ Msahiro KAWATEI

南三陸町のブランドづくりに向けたプラットフォーム発想

FSCやASC持続可能な一次産業を基盤とした自治を世界に発信
豊かな自然資源を活かした生業で暮らせる町づくり

その暮らしを支える地産地消エネルギー
「バイオマス産業都市構想」は町の基盤事業

「6次化産業＋観光産業・教育産業」などの取組みが連携する
柔軟なブランド推進のプラットフォームの先進事例を作る



南三陸町「地方創生応援税制」認定事業資料より

南三陸町の志津川地区グランドデザイン

隈研吾都市建築設計事務所資料より



襲を持った街並みが土地の記憶を継承し



新しいにぎわいの空間を作り出します

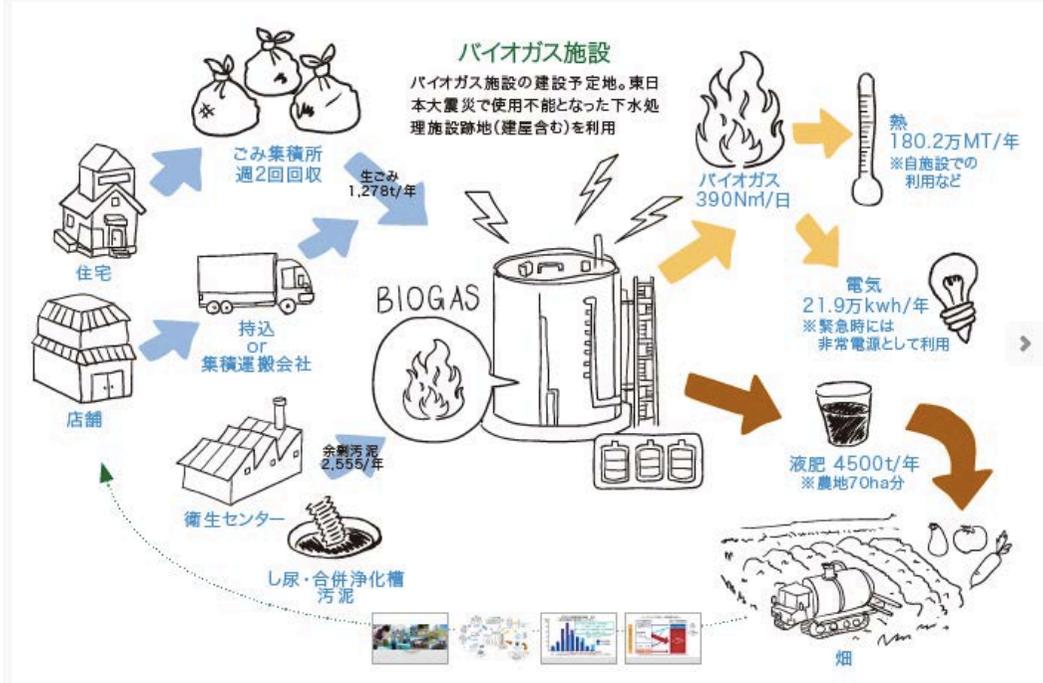
11 住み続けられる
まちづくりを



南三陸町の資源循環の基盤づくり

AMITA地域デザイン事業 Websiteより

2015年10月バイオガス施設「南三陸BIO」スタート



「バイオマス産業都市構想」やごみ焼却・埋立の町外依存施設老朽化などの課題解決に南三陸町とアマタがパートナー契約

家庭や事業所から発生した生ごみ等を微生物の力で発酵させて発生したメタンガスで発電

メタン発酵の際に発生する副産物は栄養分が豊富なため液体肥料として地域の田畑に散布



南三陸町から東北の女性達の声を世界に (2015/3/12開催)



南三陸町にて
3/12 (木)
開催!

in Tohoku



国際地域女性アカデミー オープンフォーラム

- 1 南三陸町へ世界14カ国から地域リーダーの女性たちが集まります!
- 2 5年に1度の国連防災世界会議に向けたイベントを南三陸町で開催します!
- 3 世界の女性たちを歓迎し、南三陸町の声を世界に発信するために、ぜひお越し下さい! (普段着でOK!)

日時: 2015年3月12日(木) 16:00~18:00 (開場15:30)
場所: 南三陸町ベイサイドアリーナ 文化交流ホール
参加費無料 定員350名
申込: 電話、e-mail、FAX ※詳しくは裏面をご覧ください

主催: 国際地域女性アカデミー in Tohoku 国内実行委員会 (事務局: 特定非営利活動法人ウィメンズアイ) 共催: 南三陸町 後援: 南三陸町教育委員会 / 南三陸町観光協会 / 東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN) / 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター / 特定非営利活動法人いわて連携復興センター / 2015 防災世界会議日本 CSO ネットワーク (JCC2015) / 復興庁宮城復興局 / 国連ウィメン日本協会 / 公益財団法人せんだい男女共同参画財団 / 宮城県 助成: フィッシュ・ファミリー財団 (米国ボストン) 協賛: 株式会社ウジエスパーグループ / 株式会社カミツレ研究所協力: 株式会社博報堂 / DAHA Planning Work

PROGRAM

- 「国際地域女性アカデミー」開催報告
- 海外の参加者スピーチ
- 岩手・宮城・福島に参加者スピーチ
- 南三陸町から発信「わたしコミット」を会場全員で宣言
「災害時にわたし、家族、地域を守るために、今わたしがやること、できること」を会場の全員で宣言シートに記入し、ここで採択されたメッセージ「わたしコミット」を、南三陸町の中学生から国連防災世界会議に出席するみなさんに託し、南三陸町から世界へ発信します。
- 全員で記念撮影

司会: 赤間裕子
フリーキャスター
元NHK仙台局キャスター

登壇予定: 堂本暁子 安藤美姫、他

(登壇者は調整中で変更の可能性がります)

南三陸町のみなさんの
ご来場をお待ちしています!

photo by Huairou Commission & Women's Eye



ウィメンズアイの取り組み 避難所生活で浮き彫りになった課題を踏まえ 女性たちの声も活かす「しなやかな」地域づくり



5 ジェンダー平等を
実現しよう



Japan



Women's group boosts social capital to build disaster-resilient community

Women's Eye (WE)
Miyagi Prefecture, Japan



Connecting women through crafts

Abstract

The Great East Japan Earthquake and Tsunami of March 2011 broke up communities, leaving many individuals isolated and vulnerable. To combat social fragmentation and encourage mutual aid, the present project, implemented in a northeast Japanese town, has created numerous small women's networks in order to produce safety nets in the daily lives of residents. This kind of "social capital" approach which, many scholars say, is needed for creating disaster-resilient communities, has helped to turn local women into active agents of community disaster resilience.



Women's Eye

「山さ、ございん」プロジェクト実行委員会 (2015/7/9設立)



「山さ、ございん」プロジェクトとは

南三陸杉の良さを活かし
デザイン性の高い内装材、家具、家づくりの
糸口を見つけ産業振興の筋道をつけていく

そのためのストーリー発信のプラットフォームとなり
森里海連環の物語を山から始めて
南三陸杉の発信、ファン作りを目指し
全国の人に来てもらう機会を考えていく



南三陸杉



委員長

佐藤久一郎(南三陸森林組合組合長)

委員

高橋長晴(南三陸山の会会長)

小野寺邦夫(丸平木材代表取締役)

佐藤太一(佐久専務取締役)

鈴木卓也(ネイチャーセンター友の会代表)

工藤真弓(上山八幡宮禰宜)

山内明美(東北開墾理事)

吉川由美(ダ・ハ プランニングワーク代表)

川廷昌弘(博報堂・CEPAジャパン・写真家)

事務局

南三陸森林管理協議会

CEPAジャパン

オブザーバー 南三陸町産業振興課

「山さ、ございん」(ものがたり) 自然と暮らしの物語

活動目的: 南三陸町の山の魅力を物語で輝かせる

プログラム1 「火防線プロジェクト」

「火防線」は、尾根の木々を刈り払って、山火事の延焼防止と、様々な生きものが活用できる場所を作るプロジェクト
分水嶺約60kmを踏破できる尾根道を作る



プログラム2 「イヌワシ生息環境再生プロジェクト」

翁倉山日本で戦後初のイヌワシ繁殖を確認
国の天然記念物に指定された日本を代表する地
周辺森林管轄する行政、所有者、ナチュラリスト、NPOなど多様な主体が協力し繁殖する自然環境を再生しイヌワシ復活を目指す



プログラム3 「チェック・ツリー・ツアー」(FSCジャパン監修)

「原則と基準の10原則」のチェックシートを持ち認証林を歩き自己診断。振り返りで林業への正しい理解
利用者と森林管理者との交流を深める



プログラム4 「トルルを探せ」

昔話が多数残る南三陸。豊かな物語のひとつとして
町の若者達がソーシャルメディアで伝承し始めた
山の精霊を追う



「海さ、ございん」プロジェクト実行委員会 (2016/2/6設立)

海さ、ございん

「海さ、ございん」プロジェクトとは

南三陸の海の幸の良さを活かし
未来につながる産業振興の筋道をつけていく

そのためのストーリー発信のプラットフォームとなり
森里海連環の物語を海から始める

そして、南三陸の海の恵みの発信ファンづくりを目指し
全国の人に来てもらう機会を考える取り組みです

委員長

佐々木憲雄(志津川支所運営委員長)

委員

後藤清広(戸倉出張所カキ部会長)

佐々木幸一(戸倉出張所カキ副部会長)

佐藤正浩(戸倉出張所銀鮭副部会長)

阿部寿一(丸壽阿部商店代表取締役専務)

吉田信吾(カネキ吉田商店代表取締役)

須藤勉(あおしま荘)

阿部民子(たみこの海パック)

三浦さき子(慶明丸)

渡辺公子(ちょこっと)

川廷昌弘(博報堂・CEPAジャパン・写真家)

事務局

岩崎幸雄(宮城県漁協本所経済事業部長)

阿部富士夫(志津川支所 支所長代理)

星昌孝(志津川支所 販売主任)

宮本育昌(CEPAジャパン)

オブザーバー 南三陸町産業振興課

南三陸
戸倉っかき



「海さ、ございん」(ものづくり)国内初のASCブランド

戸倉小学校は、宮城県の「ふるさと教育」の研究指定校として、「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、ふるさとを創る子どもたちの育成」を合い言葉に長年取り組まれてきました。

この精神が地域と学校の結びつきを固いものにし、当時の子ども達は保護者となって地域を支える人材となっています。

未来を担うこの牡蠣には、そんな想いを託して名付けます。



Photo @ Msahiro KAWATEI

世界でも類を見ない「山と海のダブル認証」(2016/4/4発表)



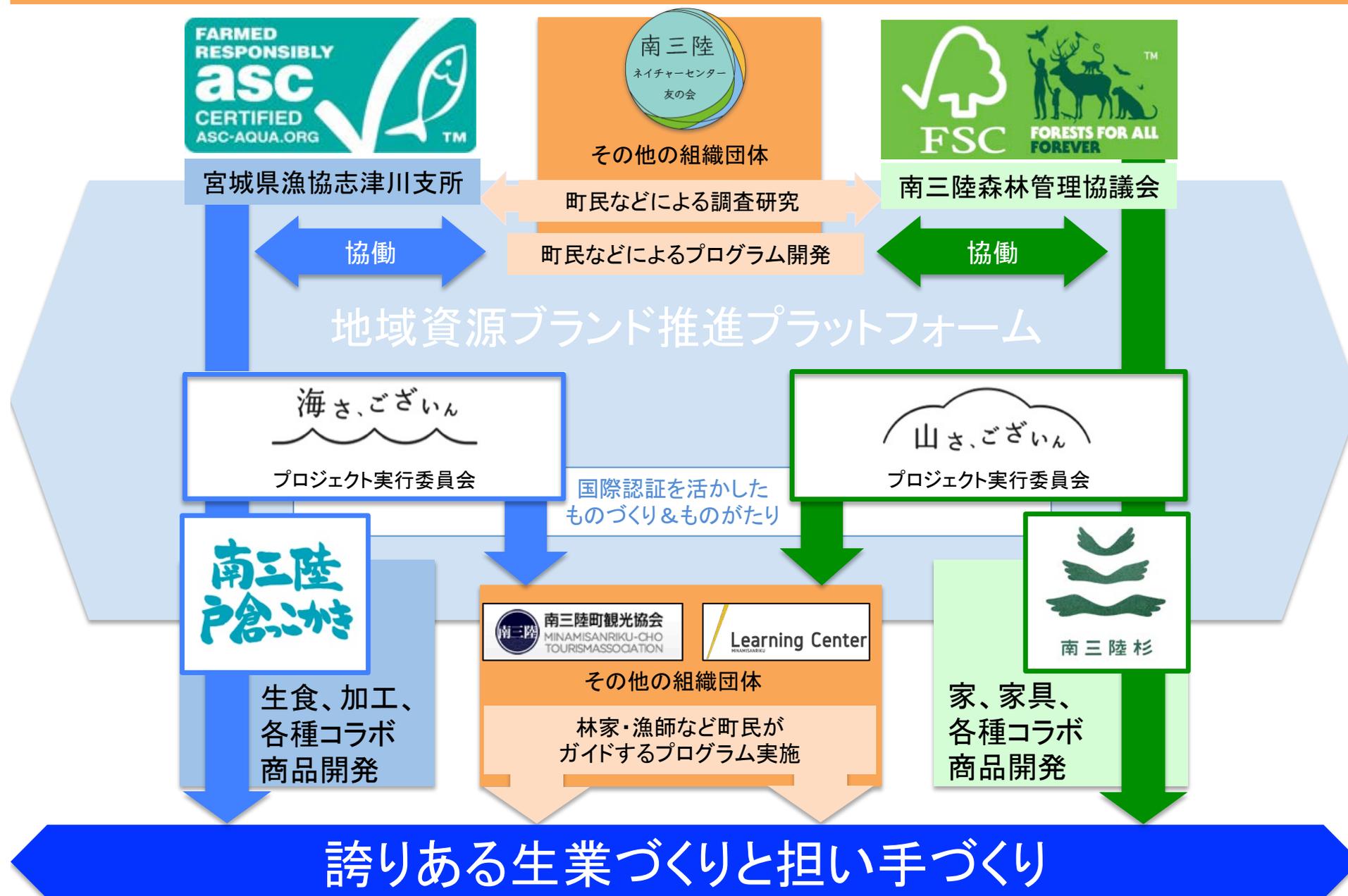
河北新報 4月5日

NHK 4月4日



Photo @ Msahiro KAWATEI

「山さ、ございん」「海さ、ございん」プロジェクトの位置づけ



※2016年4月4日記者発表での配布資料に加筆

南三陸町の自然を活かした地域ブランドづくりに向けて

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



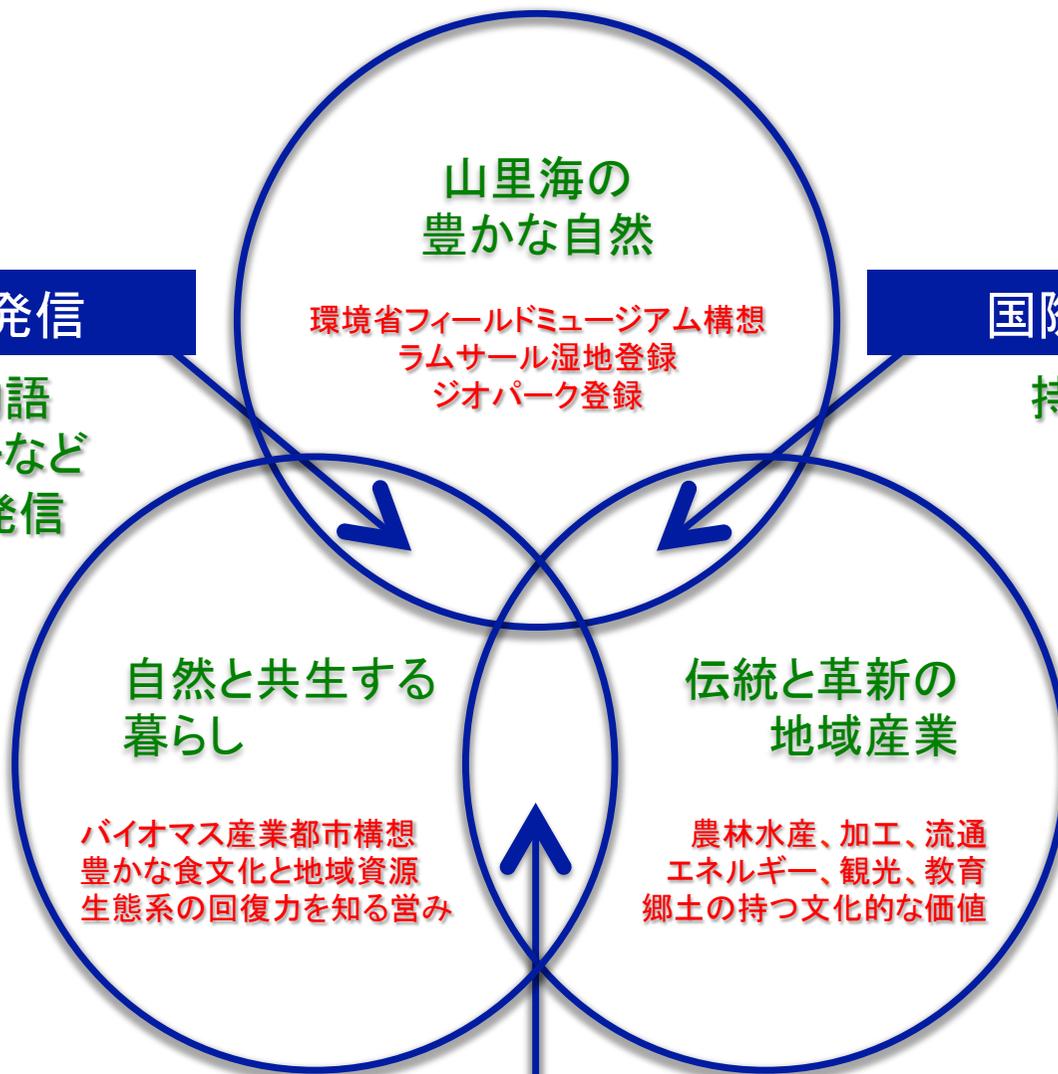
町の魅力を発信

自然と人の物語
ツールやツアーなど
プログラムで発信



国際認証の取得

持続可能な経営で
誇りある仕事の
伝統を継承



生業の創出

南三陸の魅力を形にして
外部と地域もつなぐ人づくり



南三陸町地域資源プラットフォーム設立準備委員会 委員

NO	氏名	所属等	
1	佐藤 太一	FSC(FM)	南三陸森林管理協議会事務局 一般社団法人南三陸町観光協会
2	小野寺 邦夫	FSC(COC)	丸平木材(株)代表取締役
3	後藤 清広	ASC	戸倉カキ生産部会長
4	阿部 壽一	ASC(COC)	(株)丸壽阿部商店代表取締役専務
5	川延 昌弘	FSC 普及	(株)博報堂DYホールディングス CSR グループ推進担当部長
6	楠田 豊久	バイオマス産業(転換)	アマタ(株)南三陸 Bio 所長
7	佐藤 克哉	バイオマス産業(循環)	(有)山藤運輸常務取締役 南三陸商工会
8	工藤 真弓	山さございん	元総合計画審議会作業部会委員 上山八幡宮福宜
9	阿部 民子	海さございん	民子の海バック代表
10	阿部 國博	南三陸農業協同組合	営農生活部部長
11	阿部 富士夫	宮城県漁業協同組合	志津川支所戸倉出張所長
12	高橋 長晴	南三陸森林組合	副組合長
13	松田 恭子	学識者(地域資源)	(株)結アソシエイト代表取締役
14	安藤 仁美	一般公募	(一社)南三陸研修センター コーディネーター
15	佐藤 洋子	一般公募	パティスリークリコ代表取締役
16	最知 明広	行政(副町長)	役職指定
17	高橋 一清	行政(産業振興課長)	役職指定
18	小山 雅彦	行政(環境対策課長)	役職指定

「地方創生応援税制」認定事業



南三陸町

『森里海ひと』地域資源
ブランド推進事業



【はじめに】

『企業のかで地方創生』を合言葉に、民間資金を地域の課題解決や活性化に活用するため平成28年度から政府が実施する「地方創生応援税制」に関しまして、南三陸町は内閣府に申請を行い、此度認定をいただきました。

当町は、東日本大震災により甚大な被害を受け、現在、復興事業に邁進しているところですが、震災の影響もあり、人口減少にも拍車がかかっているのが現状です。

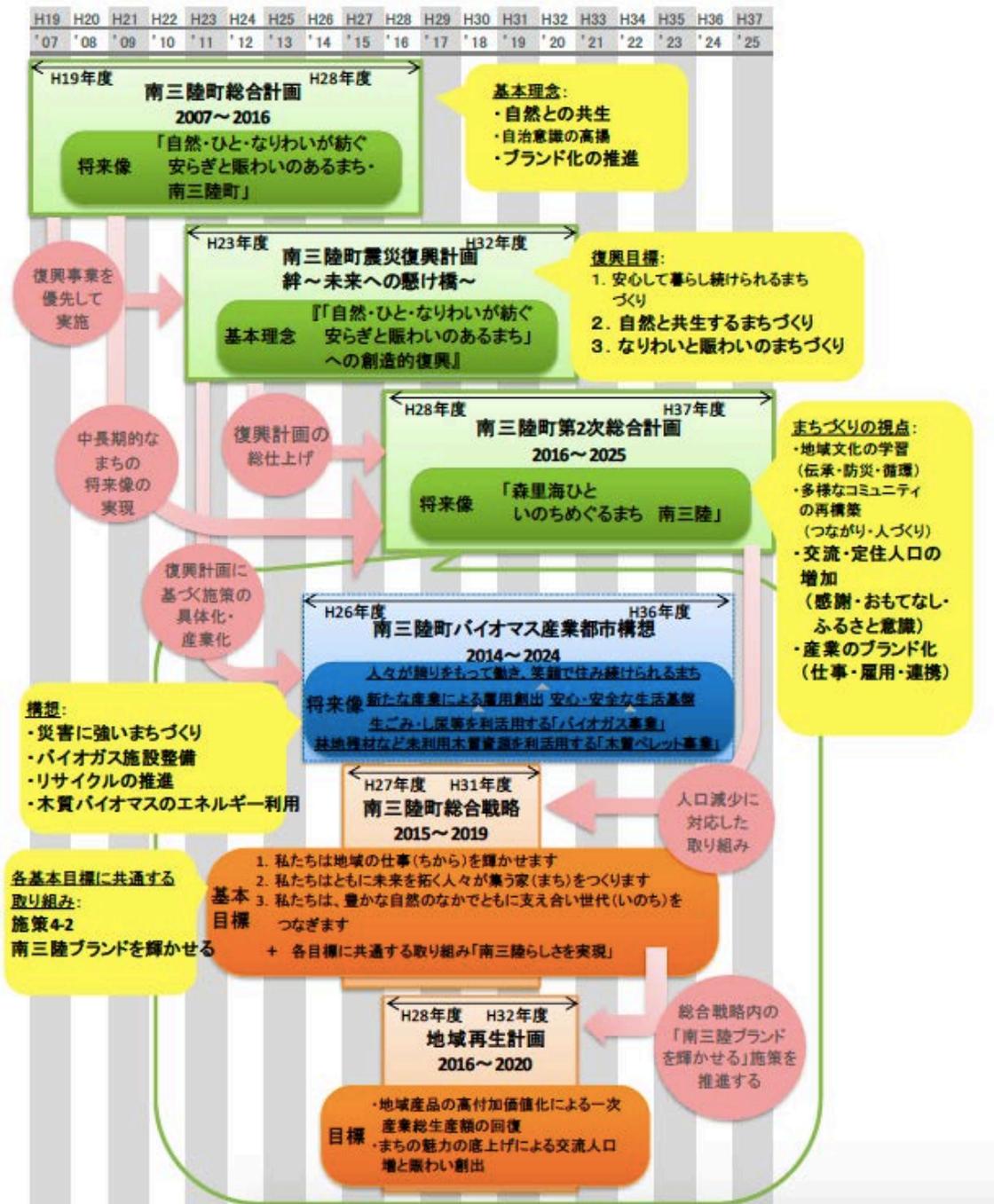
震災からの創造的復興と、人口減少への対応・地域の輝きを取り戻す「地方創生」を共に達成しなければならない厳しい状況におかれている当町ですが、みなさまからの暖かいご支援・ご寄附により、震災前にも負けない、地域の誰もが輝き、誇りをもてる地域とするため努力してまいります。

みなさまのご理解とご協力を何卒よろしく願いいたします。

南三陸町長 佐藤 仁



宮城県 南三陸町



●参考：国際社会の動向● SDGs 国連が定めた「持続可能な開発目標」

大学や企業との共同研究の可能性

平成 27 年末に期限を迎えた「ミレニアム開発目標」(MDGs)に代わり、同年 9 月 25 日に採択された国連が定めた新たな目標「持続可能な開発目標」(SDGs : Sustainable Development Goals)。2030 年アジェンダは「誰も置き去りにしない (leaving no one left behind)」「私たちの世界を変革する (Transforming our world)」を掲げ、国際社会が 2030 年までに貧困を撲滅し、持続可能な開発を実現するための世界の優先課題として 17 の目標が定められた。一人一人に焦点を当て、先進国や途上国あらゆるレベルの国々の取り組みを求めている。また、民間企業や市民社会の役割は益々高まっており、あらゆる関係者が連携すること (グローバル・パートナーシップ) の重要性を強調している。目標の中には、「持続可能な消費と生産のパターンを確保する」内容も盛り込まれている。

日本国内においても、政府の SDGs 実施指針が 2016 年 12 月に制定され、企業ではグローバルコンパクト署名企業が率先して取り組み始め、日本企業の売上げ上位 100 社のうち 35 社がサステナビリティレポートに SDGs を表記している。大学研究機関では国連大学や慶應大学を中心にアカデミアネットワークも構築され「SDGs 達成に向けた日本への処方箋」を発行している。

そんな中で、2016 年 12 月に環境省と国連大学が主催したシンポジウム「持続可能な地域づくりと企業や自治体のパートナーシップ～SDGs を活かした取組事例～」で、南三陸町の FSC、ASC、バイオマス産業都市構想などを SDGs の視点で捉えた事例発表がなされ、自治体としての取り組みが注目されている。本プラットフォーム構想としても大学や企業との共同研究という可能性を考える段階にある。



17 パートナーシップで 目標を達成しよう



12 つくる責任
つかう責任



8 働きがいも
経済成長も



14 海の豊かさを
守ろう



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



15 陸の豊かさも
守ろう



南三陸町 SDGs

3 すべての人に
健康と福祉を



4 質の高い教育を
みんなに



11 住み続けられる
まちづくりを



5 ジェンダー平等を
実現しよう



16 平和と公正を
すべての人に



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



13 気候変動に
具体的な対策を

